

令和6年度第2回（第69回） 東海村地域福祉計画推進会議 議 事 録

作成：藤田

- 1 日 時 令和6年12月18日（水）午後5時30分～7時15分
- 2 場 所 東海村産業・情報プラザ 多目的ホール
- 3 出席者 地域福祉計画推進会議委員10名（欠席：高際委員）
アドバイザー：稲垣美加子先生（淑徳大学教授）
事務局：大道課長，大内補佐，小原澤係長，檜山主任，大畠主事補，
藤田

会議結果

5 議事

（1）第5次東海村地域福祉計画の方向性について

- ・次期計画である第5次東海村地域福祉計画の方向性についてのポイントは3つ。
- ・1つ目は，第4次からのスリム化を図ること。第5次の基本目標はひとづくり，地域づくり（災害対応時を含む），権利擁護（アドボカシー）の3つに絞る，計画の合理化を図る。
- ・2つ目は，「東海村らしさ」を盛り込むこと。東海村の強みや良いところを施策の方向性に盛り込むことで，村独自の特徴を示し，将来を担う若者が希望を持てるような内容にする。
- ・3つ目は，住民が主体となり地域で考えて行動できる「自主的・現実的な計画」にすること。住民・地域・行政がそれぞれの行動指針に基づき，できること（行動・施策）を実行できるような計画にする。

（2）グループワーク

（テーマ：第5次東海村地域福祉計画のキーワード・フレーズについて）

Aグループ：ひとづくり，Bグループ：地域づくりに分かれて①東海村の理想の姿②理想の姿になるための手段について，キーワード・フレーズを考え，グループごとに発表及び意見交換を行った。

（3）その他

令和6年度第3回の会議は，令和7年2月～3月頃を予定している。日程が決まり次第，通知する。

1 開 会

2 事務局あいさつ（大道課長）

3 委員長ごあいさつ（有阪委員長）

4 アドバイザーごあいさつ（淑徳大学教授 稲垣美加子先生）

先日、福岡県北九州市の中学生殺傷事件があり、改めて安心・安全について考えなければならぬ時がきている。子どもたちの安心・安全をどう守るか、また、安心・安全を感じることができる地域とのつながりをどのように作るかについて、考えていかなければならない。

本日の会議も皆様の積極的な活動に期待する。本日はよろしく願います。

5 議 事

（1）第5次東海村地域福祉計画の方向性について

- ・次期計画である第5次東海村地域福祉計画の方向性（＝考え方）についてのポイントは3つ。
- ・1つ目は、第4次からのスリム化を図ること。第5次は、ひとづくり、地域づくり（災害対応時を含む）、権利擁護（アドボカシー）の3つに絞り、計画の合理化を図る。基本目標の表現方法については、今後検討していく。
- ・2つ目は、「東海村らしさ」を盛り込むこと。東海村の強みや良いところを施策の方向性に盛り込み、村独自の特徴を示し、将来を担う若者が希望を持てるような内容にしていく。若い世代に注視するのではなく、様々な世代のサポートを経て、若い世代が希望を持てるような計画にする。
- ・3つ目は、住民が主体となり地域で考えて行動できる「自主的・現実的な計画」にすること。第4次では、行政がひとつひとつの施策を示して住民・地域・行政が施策を実行する計画であったが、第5次では、住民・地域・行政がそれぞれの行動指針に基づき、できること（行動・施策）を実行できるような計画にする。

【質疑・応答】

なし

（2）グループワーク

（テーマ：第5次東海村地域福祉計画のキーワード・フレーズについて）

Aグループ：ひとづくり、Bグループ：地域づくりに分かれて①東海村の理想の姿②理想の姿になるための手段について、キーワード・フレーズを考え、グループごとに発表及び意見交換を行った。

Aグループ：ひとづくり ※似ている内容は割愛

【東海村の理想の姿】

○子ども・若い世代について

- ・安心して子どもが遊べる場所がある

- ・子どもたちが安心して遊びに行けるようになる
 - ・子どもたちが自由に集まれる安全な居場所をつくる
 - ・学生が楽しめる場所がある
 - 場所について
 - ・駅前に活気がある（商店や遊べる場所の設置）
 - ・障がいがあっても外出・外食できるようにする
 - ・住みたいと思う場所に住むことができる
 - ・困った時に相談できるサービスや場所がある
 - ・全世代が集う場所がある
 - 移動手段について
 - ・移動（手段）が便利になり，気軽に買い物に行ける
 - ・高齢者にも優しいまちであってほしい（交通手段や買い物）
 - その他
 - ・学校に地域の人が入っていけるようなボランティア等の機会を増やす
 - ・地域での見守り活動を強化する
- (Bグループからの補足意見)
- ・高校生が集まれる場所（商業施設，スターバックス等のおしゃれなカフェ）
 - ・小学校高学年～高校生，学生が集える場所がある

【理想の姿になるための手段】

- 子ども・若い世代について
 - ・子どもたちが放課後に集える場所をつくる（放課後の居場所づくり）
 - ・住民の理解が必要
 - ・子どもたちの見守りに高齢の方々の力を借りる
 - ・コミュニティセンターも未成年だけで利用できるようにする
 - 場所について
 - ・公共施設を誰でも簡単に利用できるようにする
 - ・地域内での顔見知りが増えるような機会や場所をつくる
 - ・空き家や空き店舗を利用し，常時，人が集える場所をつくる
 - ・商業施設を増やす
 - ・レストランの障がい者合理的配慮の推進（ヘルプマークの周知）
 - 移動手段について
 - ・コミュニティバスの活用（値段，ルート，バス停の数も考慮）
 - ・バスの本数を増やす
 - その他
 - ・出前スーパー，配達，配食サービスの発達
- (Bグループからの補足意見)
- なし

Bグループ：地域づくり ※似ている内容は割愛

【東海村の理想の姿】

○地域交流について

- ・地域交流ができるようになる
- ・地域の人と関わりができるようになる
- ・地域の集まりや行事の参加者が増え、人との関わりが活発になる
- ・役場OB・OG，先生OB・OGが積極的に地域活動に入ってくれると良い
- ・多世代の交流の場をつくる（子どもから高齢者まで）
- ・現在働いている人が参加しやすい時期や時間帯などを工夫する
- ・活動する仲間を増やす

○地域への愛着形成について

- ・東海村が好きだと思える人を増やす
- ・若い世代が東海村を離れずに生活できるようになる

○その他

- ・誰でも役員ができるようになる（役員をしやすい環境）
- ・バスやタクシーなどを気軽に利用できるようになる
- ・村の事業を若者世代が知っている

(Aグループからの補足意見)

- ・中学生の職場参加等，地域に参加する機会を増やす
- ・誰でもあいさつができるようになる
- ・誰もがあいさつし合える環境
- ・中高生，若者の明るさ，元気さが必要
- ・仕事を辞めた方が生き生きと過ごせるようになる
- ・退職者等が経験を生かせる役割があると良い

【理想の姿になるための手段】

○地域交流について

- ・きっかけづくり（誰でも参加可能なイベントの開催）
- ・参加者が多くなるような魅力的なイベントをする
- ・若い方の趣味のイベントの開催（例：多肉植物の寄せ植えイベントの毎年または隔年実施により，交流の場をつくる）
- ・地区社協，自治会等を利用する
- ・駅周辺など立ち寄りやすい場所でイベントを開催
- ・3世代交流のイベントに参加しやすい曜日，時間帯，場所で行う
- ・交流の場を設定する（場の設定により，話す機会が増える）

○地域への愛着形成について

- ・故郷愛を養うために，東海村の魅力を紹介するイベントを開催する
- ・若い世代の方々のアイデア，やりたいことを取り入れる
- ・若い世代が気軽にボランティアできる機会をつくる
- ・コミュニティセンター等の施設にて若い方の交流会を実施
- ・東海村の魅力を発信しつづける
- ・世代間交流を通して，次の世代を育てる

○その他

- ・ 役員の任期を決める
 - ・ 先輩役員がアドバイスし、サポートする
 - ・ 出会いの時に意義あるものにする
 - ・ 会社OB・OGの方にも参加，協力いただける地域活動のルール化
- (Aグループからの補足意見)

- ・ 大人から声掛けをする
- ・ 学校教育で外部との関わりを増やす
- ・ 授業の一環として，地域について考える（子どもたちの考え，意見をきく）

【アドバイザー講評】

両グループの発表で，あいさつが出た。Aグループは若者からのあいさつが少なく，寂しく思っていること，Bグループは若者の積極的なあいさつで元気をもたらしていること。同じあいさつをとっても，地区によって状況が異なっていることが分かる。あいさつは，仏教において人と人の中に入っていくことを示しており，あいさつをきっかけに地域で良好な関係を築くことができると思う。何か大きなことを成し遂げる必要はなく，小さなことからコツコツと地域との関係性を築くことが大切であり，安心・安全な地域につながっていくと思う。

今回はひとつづくり，地域づくりと2つに分けてグループワークをおこなったが，地域で集うことができる場所も必要である。ただの場所ではなく，魅力的な場所づくりが重要であり，行政所管の施設では利益が出ないこともあるが，多くの人に魅力的な場所を提供し，住んでいる地域の良さを一つでも多く知ってもらうことが大切である。また，ひとつのつながりという点で，顔見知りになり，いざとなったら助けられる関係性をつくることも重要である。場所や人のつながりをつくり，安心・安全な地域を目指していただきたい。

そして，“ユース”（若い世代）をどう支えるのかも重要である。現在は，昔より，子どもの期間（親に頼ることができる期間）が長くなっているように感じる。若い世代がどう大人に寄り添ってもらいたいかについて，若い世代からの意見を基に考え，子どもたちが安心して成長できる環境を整えることも必要である。

今回は，ひとつづくり，地域づくりという言葉を使ったが，人を育む，地域を創るためにどのような行動をとれば良いのか，行動指針をつくり，実際に住民・地域・行政が活動できるような次期計画の策定に向けて，引き続き皆様の積極的な意見をお聞きしたい。

また，今後は，社協や行政の発表ではなく，若い世代や実際に地域で活動している委員の方々からの発表を期待する。

(3) その他

令和6年度第3回の会議は，令和7年2月～3月頃を予定している。日程が決まり次第，通知する。

6 閉 会